

一 漢字の読み書き 解答・解説

問一（二点） 正答 ろうどく 解説 朗は「ろう」。文章を声に出して読むこと。

問二（二点） 正答 ながめる 解説 「眺める」は、広く遠くを見渡すときにも使う。

問三（二点） 正答 そんなちょう 解説 「尊」は「そん」、「重」はここでは「ちょう」。

問四（二点） 正答 えいきょう 解説 物事がほかの物事に作用を及ぼすこと。

問五（二点） 正答 分担 解説 分けて受け持つこと。

問六（二点） 正答 往復 解説 同じ区間を行き来すること。

問七（二点） 正答 面積 解説 平面の広さを表す。

問八（二点） 正答 増加 解説 数量が増えること。「増」の右側の形に注意。

二 言葉の知識 解答・解説

問九（一点） 正答 狭い 解説 広さを反対の意味で表す。ひらがなの「せまい」も可。 別解・許容 せまい

問十（一点） 正答 イ 解説 注意してよく聞くという慣用句。

問十一（一点） 正答 ウ 解説 示した読みに従って判断する。火山の「ざん」は音読み。ほかの三つの「やま」は訓読み。

問十二（一点） 正答 エ 解説 地域が異なっても意味を共有しやすい。方言が誤りということではない。

三 文法と表現 解答・解説

問十三（二点） 正答 小さな／鳥が／庭で／鳴く。 解説 「ね」を自然に挟める最小のまとまりを確かめる。句点の有無は不問。

問十四（二点） 正答 妹は 解説 「誰がどうした」に当たる文節。助詞まで含めて答える。

問十五（二点） 正答 見える 解説 山がどうする・どんな様子かを述べる中心。

問十六（二点） 正答 流れる 解説 流れる様子を詳しくしている。「白い」は「雲が」にかかる。

問十七（二点） 正答 ウ 解説 同じ資格で並ぶ並立の関係。

問十八（二点） 正答 接続語 解説 前の文と後の文の内容をつなぐ働き。文の成分を問うため「接続詞」ではない。

四 小説を読む 解答・解説

問十九（二点） 正答 イ 解説 ①「明日の昼までに」「あとは矢印を貼るだけ」から、準備を仕上げたいと分かる。

問二十（二点） 正答 紗季の地図 解説 「紗季の地図を指さして言う」とあることから分かる。 別解・許容 地図

問二十一（三点） 解答例（三十三字） 完成したと思っていた地図の分かりにくさを指摘され、悔しかったから。 解説 ③直前の発言と「何度も」の描写を結び付ける。地図が飛ばされるのを防ぐため、ではない。 採点 完成したつもりだった・努力して作ったこと一点、分かりにくさを指摘されたこと一点、悔しさ・反発一点。

問二十二（三点） 正答 エ 解説 初めて来る人と同じ場所から実際に地図を使って確かめている。

問二十三（三点） 正答 低学年の子が、曲がり角で地図を回し、顔を上げてはまた紙を見ていたこと。 解説 自分分る曲がり角でも、初めて使う人は迷うという事実を目にした。 採点 子どもが地図を見ていた一点、曲がり角で道順を確かめる・迷っている様子二点。

問二十四（四点） 解答例（三十八字） 地図を直すことを失敗と考えず、使う人のために工夫するのが楽しくなった気持ち。 解説 ③の強く押さえる動きと⑥の軽い動きを比べる。単に鉛筆が軽いという意味ではない。 採点 修正への抵抗がなくなった二点、使う人のために工夫する前向きさ二点。

問二十五（五点） 解答例（四十九字） 悠斗の言葉に紗季が自分から地図を差し出すことで、二人で確かめながらよりよい案内を作る姿勢が伝わる。 解説 ⑦では説明的に「成長した」と書かず、会話と行動で変化を示している。 採点 悠斗が再確認を誘う言葉一点、紗季が自分から差し出す行動一点、協力して改善する姿勢二点、両方を結び付けた説明一点。

五 説明文・論説文を読む 解答・解説

問二十六（二点） 正答 ウ 解説 聞く側が知っていることを考え、手がかりを選ぶ必要があるという主張。

問二十七（二点） 正答 ア 解説 二つ目の例を加える接続。「また」が適切。

問二十八（三点） 解答例（三十七字） 初めて作る人にも、どの部分をどこまで折ればよいかを具体的に示しているから。解説 「向こう側」だけでは場所が共有できない。折る部分と終点が表示されている。採点 初めて作る人の立場一点、折る部分が分かる一点、折る位置・終点に分かる一点。

問二十九（三点） 正答 イ 解説 知っている相手には、必要以上の情報がかえって負担になる。

問三十（二点） 正答 エ 解説 ②と同じ説明上の問題を、③では工作という別の具体例で示している。

問三十一（四点） 正答 例：動かない目印／折る部分と折る位置 解説 ②に目印、③に紙の角と中心が示される。単に「詳しい説明」では例にならない。別解・許容 橋を渡って最初の角、時計台の位置、紙の右上の角、紙の中心など。採点 本文に基づき異なる例を各二点。

問三十二（五点） 解答例（四十八字） 相手の動きを見れば説明の足りない部分や余分な部分に分かり、その人に合う手がかりを選び直せるから。解説 ⑤末尾を別の場面に応用する問題。単なる暗記確認ではなく、説明を相手に合わせて直すことが目的。採点 相手の理解・動きを確かめる二点、不足や余分に分かる一点、相手に合わせて説明を直す二点。

六 古典 解答・解説

問三十三（二点） 正答 いう 解説 語中の「ふ」を「う」に直す。発音を問う問題ではないので「ゆう」としない。

問三十四（二点） 正答 よろず 解説 歴史的仮名遣いの「づ」を、ここでは「ず」に直す。

問三十五（二点） 正答 イ 解説 この古文の「うつくし」は、小さなものへの愛情を含む「かわいらしい」。

問三十六（三点） 正答 根元が光る竹があり、不思議に思ったから。 解説 「もと光る竹」から「あやしがりて、寄りて見るに」へ続く。 採点 竹の根元が光る二点、不思議に思う一点。

問三十七（三点） 正答 ウ 解説 直前の竹の筒の中をさらに見ると、人がいると分かる。

問三十八（四点） 解答例（三十二字） 竹を取っていた翁が、光る竹の中に小さくかわいらしい人を見つけた。 解説 全体の出来事を、人物・場所・発見に注目してまとめる。 別解・許容 翁が光る竹に近寄って中を見ると、小さくかわいらしい人が座っていた。（三十三字） 採点 翁の本文にある行動一点、光る竹の中心一点、人を見つけたこと二点。「竹を取る」「近寄って中を見る」等を許容。「小さい」「かわいらしい」の両語は必須にしない。

七 資料を用いて書く 解答・解説

問三十九（二点） 正答 イ 解説 複数回答では、同じ人が複数の項目を選んでいる可能性がある。

問四十（六点） 解答例（五十九字） 本を採す案内を充実させたい。希望者が二十二人と最も多いからだ。本の種類ごとに棚の位置を示す案内図を作ること提案する。 解説 選択は自由。希望者数と改善案がつながっていれば、座席や新しい本を選んでよい。 採点 取組を一つ選ぶ一点、資料の数字を正しく使う二点、取組に合う具体例二点、理由と提案のつながり一点。

採点の共通規則と出典

記述は解答例です。本文・資料に合い、指定条件を満たす同内容の答えは正解とします。書き取りは漢字、読みはひらがなで採点します。

記述の内容点は各問の基準で加算します。字数不足・超過は内容点から1点減点（0点未満にしない）。誤字・脱字や不自然な文末は、意味を妨げる場合に限り1問につき1点減点。複数の形式違反があっても、形式による減点は合計1点までです。

現代文、設問、現代語の説明、表のデータは本教材のために作成しました。古典は著作権保護期間の満了した原文を抜粋し、表記を学習用に整えています。架空の調査を実際の統計として用いないでください。

文部科学省「中学校学習指導要領解説 国語編」と、光村図書「令和7年度版 年間指導計画例」で学年の学習内容を確認しました。各校の定期試験問題・出題頻度を収集したものではありません。学校の試験範囲に合わせて使ってください。

確認日：2026年10月。全問の内容・解答・字数・図表・表示をAIによる独立確認で点検しました。教員や生徒による実地検証は行っていません。

範囲の参照先

文部科学省 www.mext.go.jp

光村図書 www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c-kokugo/keikaku

古典本文の照合先

『竹取物語』冒頭（作者未詳）

加賀市サイト掲載『よみま将軍』（2015）。一部に異本差があります。

www.city.kaga.ishikawa.jp/material/files/group/8/yomimashogun.PDF

斉藤みか「かぐや姫の表現」所収の原文も照合。

icu.repo.nii.ac.jp/record/4744